



Jichi 地域連携ニュース

- ・ 就任のご挨拶 …………… 嶋田 明
- ・ ハローワーク宇都宮による治療と仕事の両立に関する相談会について
- ・ 看護職員がいきいきと
- ・ 自治医科大学附属病院医師同門会について
- 働き続けられる職場をめざして …… 大海佳子
- ・ FAXによる患者様紹介について

就任のご挨拶

小児科 教授 嶋田 明



本年 6 月より自治医科大学小児科学、とちぎ子ども医療センター小児科でお世話になっています、嶋田と申します。私は鳥取市の出身（鳥取砂丘の東端のほう）で、平成 4 年鳥取大学卒業後、小児科に入局（当時は白木和夫教授）、大学病院で初期研修後、関連病院小児科で勤務後、大学院入学、大学院ではウイルス学教室（当時 HTLV 1 の日野茂男教授）でお世話になり、当時はまだよくわかっていなかった C 型肝炎ウイルスの研究で学位を頂きました（Cancer Res 1998）。この時医学研究の面白さに目覚め、平成 11 年から現在専門としています小児の血液・腫瘍学の研鑽のため、埼玉県立小児医療センター（当時花田良二部長）、群馬県立小児医療センター（当時林泰秀院長）の小児血液腫瘍科で勤務しました。忙しい臨床のなかで研究

を継続し、良い仕事に恵まれ（Blood 2006）、米国 St. Jude Children's Research Hospital, Department Pharmaceutical Sciences (Dr. Sharyn D. Baker) に Post Doc Fellow として 2 年間留学する機会を得ました。そこは薬学部だったので、急性骨髄性白血病（AML）の薬剤耐性化機構について研究しました。帰国後は実家が鳥取なこともあり、西日本へと考え、名古屋大学小児科（当時小島勢二教授）、岡山大学小児科（当時森島恒雄教授、塚原宏一教授）で勤務しました。本年 6 月より山形先生はじめ教室の先生がたのおかげでこちらでお世話になっています。

振り返ってみまして、何度か分岐点がありましたが、良い師匠に巡り合うことが専門性を伸ばすには極めて重要で、一番の早道だったなと思います。そうした先達とかレジェンドに会えるか会えないかは、意図して会える場合とそうでない場合もあるので、まさに“めぐりあわせの妙”と言えます。私の大学院のころは最初卒業できないかも（恐）でしたが、何とか卒業でき、また研究の面白さを知ることもでき今日に至っています。若い方には、そうした巡り合わせを大事にしていきたいと思います。

自治医科大学小児科は鳥取大学の卒業生も実は 5 名（？）もいらっしや、同郷の先生も複数各分野で活躍されていて頼もしく感じます。

赴任して 4 か月が経ちましたが、毎朝（？）ウォーキングと筋トレをするという自分としては上出来な生活を送っています。あと自転車（ロードバイクと MTB）に乗るのと、キャンプ、バイクツーリング、畑仕事も頑張ります。ちなみに畑は困っていたところ、無料で借りられて、我が家の粗食に貢献しています。

昨今のコロナウイルスの流行や少子高齢化など医療を取り巻く状況は大きく変化してします。またオンライン診療、AI の導入、ゲノム医療の進展、遺伝子治療の導入など今後も大きく変化していくことが予測されています。私が専門とします小児の血液・腫瘍、特に白血病などの小児がんの医療も、治らないから治る、さらには後遺症をできるだけ少なくする医療へと変化してきています。人生 100 年時代を迎え、小児がん経験者のメタボリック症候群や、二次がん、妊孕性のことなど、治療後健康に送れるように生活習慣病の予防が重要で（自分も含めて）、成人領域での対応も必要です。ということで、今後各方面の先生方にご協力を仰ぐと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。自治だからこそできた！という仕事を目指して行きます。

看護職員がいきいきと働き続けられる職場をめざして

附属病院 副院長
看護部 部長 大海 佳子



2021年4月1日付で看護部長を拝命いたしました“おおみけいこ”と申します。

自治医科大学は2022年に、附属病院は2024年に創立50周年を迎えようとしています。当院の建設に父親が携わっていたこともあり、受け渡し間際の本館8階（旧レストランおおり）から、自分の住む街並みを見て、とても感動したのを鮮明に覚えています。我が家は自治医大が見える田園地帯（旧南河内町）にあり、まさに「あなたのそばに自治医大」の環境で過ごしてきました。小学校、中学校はもちろん、高校も下野市、看護の学び舎も下野市（現自治医科大学看護学部）、現住所も下野市です。住民であるからこそ伝わってくる自治医科大学附属病院の評価はとて高く、下野市歌の歌詞にも「医療福祉の灯をともし」とあるほどです。その場所で、勤務していることを誇りに思って今日までできました。この度の、看護部長への就任は、大げさかもしれませんが自治医科大学附属病院看護部だけではなく、下野市民の期待をも背負っているような気がして、身が引き締まる思いです。就任して半年が過ぎようとしています、刻々と変化する新型コロナウイルス感染症に柔軟な管理対応が求められ、あらためて、変化の多い社会情勢、医療情勢の中で、質の高い看護を提供し続けるための組織運営の難しさを実感しています。皆様のご指導を賜りながら、この重責を全うできるよう、誠心誠意努力してまいります。今後とも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

今回このような機会をいただきましたので、看護部理念の紹介と、私がめざしたい看護部組織について記載させていただきます。

まず、「安心感と温もりのある患者中心の看護を提供します」という看護部理念についてです。附属病院開院以来「私たちは、患者、家族の皆様が安心と満足の得られる看護を提供します」という理念の下で看護を高めてきました。脈々と受け継がれてきた附属病院看護部のアイデンティティを損なうことなく、看護部の存在意義や使命などの基本的な価値観を表現するために、前看護部長、看護副部長、看護師長全員で知恵を出し合い検討したものです。各部署のリーダーである看護師長がこの理念の検討に携わった意義はとて大きく、自分達がつくった理念に基づいて、部署をマネジメントしてきたのではないかと思います。

患者さんに「安心感」と「温もり」を与えるためには、何が必要でしょうか。多くの知識と正確な技術の基に実践される柔軟で最適な看護を提供する力が必要なのは言うまでもありません。元聖路加国際病院病院長の日野原重明先生は「現実に見えるものを観、実際に聞こえるものを聞いているのが医師だとすれば、看護師は、自分という存在をフィルターとして患者の内にある目に見えぬものや語られない言葉を感じているのだ」と看護の時代という著書の中で述べています。私たちの五感と手を使い、見えない、語られない患者さんの思いを感じ取り、そして、そこに「こころ」を添える行為によって、患者さんに温もりのある看護を実践したいと思っています。看護の本質は、患者さんへの関心です。自分の大切な家族、友達、恋人に関心を示し親身になるように、患者さんに気持ちを寄せ、発した言葉や触れた手からその思いが伝わるような看護によって、患者さんが「温もり」を感じるのではないのでしょうか。

安心感と温もりのある看護とは実践力と人間力があって成し遂げることができる技だと思っています。IT化が進む中でも、私たちにしかできない技—患者さんの生きる力を引き出すことができる技—であり、看護職が必要とされる所以なのだと思います。

昨年度の患者満足度調査で、看護職員の対応への満足度は、入院98.6%、外来98.8%という高い結果でした。看護職員がコロナ感染症でストレスフルな生活を強いられている状況でも、職場では、面会

禁止下での患者・家族への臨機応変な対応や、他部署への積極的な応援業務をおこない、看護職員一人一人が理念に基づいた看護を体現した成果であると自負しています。これからも、「安心感と温もりのある患者中心の看護」を先導していきたいと思います。

つぎに、私がめざしたい看護部組織についてです。私は、「一人ひとりの看護職員がいきいきと働き、組織・チームとして力を発揮できる看護部組織」を目指したいと考えています。看護職員が「看護が楽しい」と感じ、やりがいのある職場を構築することです。「みんなちがってみんないい」（金子みすゞ）。複数の人がコミュニケーションをする以上、意見の不一致や理解の差は必ずあります。自分の意見を言葉にしなければその不一致に気づくことはありません。自分と異なる他者の価値や違いを認めることのできる職場でなかったら、異なる意見は閉ざされたままです。不安を感じることなく自由に意見を言える対話的コミュニケーション環境によって、新しい視点や気づき生まれ、それを皆が共有することで、発展させることができ、成果に結びつくのだと思います。このような状況は、自己や組織の現状や可能性に、ポジティブな感情や行動を抱くこととなり、職場における学びや成長を促進させることができるのだと思います。これは看護の質の向上を導き、患者満足度も高めます。質の高い看護の提供や患者満足は、病院経営にも貢献する結果となることでしょう。

看護部の目標を考えている時に、看護副部長から「“看護が楽しい”と感じる職場をめざすことは賛成ですが、これを何で評価するのですか。取り組むのであればBSC（Balanced Scorecard：戦略的経営システム）に加えましょう」という心強い後押しがあり、BSCの「内部顧客の視点」に「職員満足維持・向上」という目標を加え、職員満足度調査項目の「やりがいを感ずる」の結果で評価することにしました。1400人を超える大きな集団における個々の感情、認識、モチベーションにかかわる部分ですので、すぐに成果として現れないかもしれません。しかし、看護部を支える5人の看護副部長（写真）、43人の看護師長、82人の主任看護師、多くのチームリーダーやサブリーダーの力を借りながら、実現に向けて歩んでゆきたいと思います。

看護の本質が患者に対する関心であるように、管理の本質は、看護職員に対する関心です。私自身が、看護職員を自分の家族や友人のように、大切な存在として関心を示し、看護職員の立場で考え、直接的に、そして間接的に関わってゆきたいと考えています。「一人ひとりの看護職員がいきいきと働くことができる環境」のもとで「安心感と温もりのある患者中心の看護」の実現を目指していきます。今後とも、看護部へのご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



（佐田病院長と撮影）

治療をしながら働きたい、 働き続けたい方へ

治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい！

通院しながら働きたい！

仕事復帰の不安を解消したい！



自分の病状にあった
仕事を見つけたい！

就職活動で、会社に
病気のことを伝える
べきか迷っている。

～治療と仕事の両立に関する相談会～

在職中・休職中の方

両立支援促進員
(栃木産業保健総合支援センター)
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日
10:00～13:00

(再)求職中の方

就労ナビゲーター
(ハローワーク宇都宮)
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日
13:30～15:30

院内で相談が受けられます！
事前のご予約を！

◇方 法：完全予約制*相談希望月の第1火曜日17時までにお申し込み下さい

◇費 用：無料

◇その他：*疾患の種類・県内外住所地は問いません。

*匿名でのご相談もお受けしております。

◇相談実施場所（自治医科大学附属病院内）

患者サポートセンター医療福祉相談室

◇予約連絡先 0285-58-7107（直通）

◇実施機関連絡先

栃木労働局 ハローワーク宇都宮 専門援助部門 電話028-638-0369 部門コード#45

独立行政法人 労働者健康安全機構 栃木産業保健総合支援センター 電話028-643-0685

◇後援：自治医科大学附属病院 患者サポートセンター



自治医科大学附属病院医師同門会について

当病院では、OB医師を中心に「自治医科大学附属病院医師同門会」を組織し、総会・懇親会の開催や会報の発行等を行っております。

入会の条件は、「①自治医科大学附属病院で、医師・歯科医師として勤務経験があること、②同会の趣旨に賛同していただくこと」の2点のみです。会費は3年間で1万円です。

これを機会に是非入会をお勧めいたしますとともに、皆様方の周囲に当病院OB医師がおられるときは、当会の存在をご案内くださいますようお願いいたします。

入会に関する連絡・照会先は次のとおりです。

自治医科大学附属病院 医師同門会事務局（地域医療連携室内）担当：松本恵美子、渡辺秀男
TEL 0285-58-7463・0285-58-7461 / FAX 0285-44-5397 / e-mail byoushin3@jichi.ac.jp

FAXによる患者様紹介について

当院では、FAXにより患者様の事前予約を行っております。事前にカルテの作成等事務手続きを済ませておくため、受診当日の患者様の事務手続きにおける待ち時間が短縮されます。是非ご利用いただけますようご案内いたします。

FAX 事前予約受付（休診日を除く）月曜日から金曜日まで 午前9時～午後3時

受付時間外にお送りいただいた申込書の対応は翌受付時間内での対応となります。

－ご注意－

- ◆ 医療機関以外（患者様本人等）からの予約受付は行っておりません。
- ◆ 受診当日の予約、および時間予約は行っておりません。
- ◆ 予約を変更（又は取消）される場合は、事前に紹介元医療機関から地域医療連携室までご連絡ください。

< FAX 予約のご利用方法 >

1. 「FAX診療予約申込書」を作成し、当院あてにFAX送信してください。FAX診療予約申込書は、当院のホームページ（<http://www.jichi.ac.jp/hospital/>）よりダウンロードできます。
※小児外科は「紹介状（診療情報提供書）」を併せてFAXしてください。
2. 当院では予約をお取りし、「FAX診療予約申込書」を返信します。
3. 患者様に「紹介状（診療情報提供書）」と「FAXによる診療予約票」をお渡しください。
4. 来院日には、「紹介状（診療情報提供書）」と健康保険証を持参し、医事課・FAX紹介状提示窓口に提示するようご案内をしてください。

